

地球の表面積の 10 パーセントに及ぶ広い地域から産出されるテクタイトで、オーストラリア・アジアテクタイトに属する。南では南極からも産出される。

隕石の落下場所は特定できておらずインドシナ半島の東ではないかと推測されている。

同テクタイトは 79 万年前に落下した隕石衝突により舞い上がった地球の成分が溶解し、ガラス化し、空中で沸騰しながら急冷された鉱物はディンプルといわれる特徴的な凹凸の痕跡を残す。

オーストラリア・アジアテクタイトの特徴は、低温、低速で形成された、他のテクタイトと異なることが多い。

水分含有量も他のテクタイトよりも多く、火山性天然ガラス（オブシディアン）よりも少ないことがわかっている。

イリジウムや鉄隕石の成分を含み、通常のガラスとの結合・結晶構造も異なることがわかっているが、化学成分も不安定であり、一様にそれとは謂えない。

層状の竜紋やクリストバライトも見ることができることから、人工の物（偽物）ではないと思われる。

オブシディアンもその土地の成分によって左右されることがあるので、産地によって成分の差異はできる可能性もある上、オブシディアンにはディンプルが出ない。十勝石のような丸い物も存在するが川石であり、鉱物が形成された時にできた形ではなく、川を流れることにより丸くなったものである。表面の凸凹は小さなもので、形も非常に滑らかである。

▼以下引用文

・オーストラリアから東南アジアにかけて広がる Australasian 分布域についてはいまだにその衝突地点が特定されていない。

隕石が地球上に落下したときに地球表面物質が溶解固結したガラス物質としては、衝突ガラスが知られているが、その形はいびつであり、化学成分も一様ではなく、水の含有量も高いことから、テクタイトとは明らかに異なっている。

・中国海南島は Australasian 分布域の北限に位置する。

・(含水量について) 我々が得た 0.024~0.029wt% という値は一般的な火山ガラスの含水量 (>0.1wt%) よりも優位に低い。しかし、テクタイトについて報告されている中では高い含水率を示し、Australasian 分布域の普通のテクタイトの値 (~0.01wt%) よりも優位に高く、やや含水量の高い普通のテクタイト Ivory Coast テクタイトや moldavite と呼ばれる